

つばめ通信

6月に荻原宿で始まるアートの祭典「夜明けの家」の活動報告を月2〜4回配信していきます。どうぞよろしくお願いします。

アーティスト滞在記

ゴールデンウィーク中は大勢のアーティストが木曽入りしてそれぞれの会場で滞在制作を行いました



谷口智美は木曽で採集した土を使いニッチな空間を巣の様に変貌させていきます



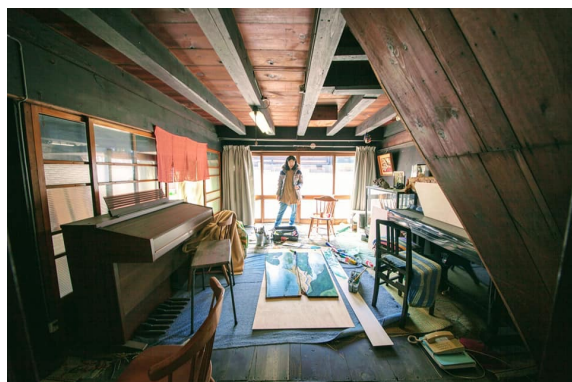
伊藤美緒は部屋に残されていた写真を手掛かりに障子紙を使って透ける絵画を制作



池上怜子は部屋に残されていた衣類とミシンを使いパッチワーク作品を制作します



新野伽留那は壁に貼られたポスターなどと共に絵画をディスプレイしていきます



中国からの留学生である金海生は木曽で手に入れた古材に絵画を制作していきます

発酵とアート

木曾には世界に誇る発酵食品が存在します。すんきです。それは海から遠い山奥の地で塩を一切使わずにカブを乳酸菌発酵させた漬物です。その土地の環境と生活が生み出したまさに文化と呼ぶにふさわしいものだと思います。発酵と腐敗は紙一重であるといいます。食材と微生物は理想的な環境で出会わなければすぐに腐敗してしまうのです。同じ微生物でも土地が変われば条件もまた変化し味も複雑に変化して土地固有のものとなっていきます。食材が魔法にかけられたように旨味と栄養価をともなって生まれ変わっていく為にはその土地の特性に合わせて最良の環境を整える努力を維持しなければならないのでしょうか。

明治大正昭和平成と懸命に生きてきた近代の日本ですが、社会の中でアートの立ち位置はどこかごちないままに過ぎてきてしまったように思います。この国ではアートはいまだ一部の人間のものという認識を多くの国民は持っているのではないのでしょうか。

私自身も含めアーティストは海外にいくと特異な経験をします。こちらの職業を告げると相手の態度が変わる場面にも何度も出くわしますし、作品を発表したあとには敬意をもって接してくれるのを感じることができます。国内にいるときにはあまり尊敬されるということがないので特異な経験となってしまうのです。そんなこともあり必然的にアーティストは自分たちの奇妙なサークル内に閉じこもるか海外を目指してしまいます。接点を欠いたままこの国とアートの幸福とはいえない関係はいつまでも放置されたままです。

Cultureカルチャーという単語はラテン語のcolere（耕す、栽培する）に由来し、文化を意味するだけではなく微生物の培養という意味があります。これは何を意味するのでしょうか。

文化とは今・この場所に存在する全てのものが共に働きかけながら心地よい関係を築き作り上げなければ生まれえないものなのではないのでしょうか。そしてそれは自分たちが今何処にいて、どのような季節を生活しているのかを感じることもできるものでしょう。そして常に環境は変化し続けるので注意を怠れば腐敗していくのでしょうか。

そうした意味では近代の日本におけるアートは文化を形成し損ねたと言えるのかもしれません。西洋文化への盲信から自国の伝統を切り捨て、あげく妙なコンプレックスを植えつけられてここまで来てしまいました。元号も変わり新しい朝を迎えた今、地に足をつけ文化を築いていかなければなりません。

木曾ペインティングスも今年で3年目となりました。vol.3「夜明けの家」は中山道の宿場町藪原宿に増えつづける空き家が舞台となります。空き家は樽で、そこに残る家族の歴史や記憶は微生物となって漂い続けているとしましょう。アーティストは良きシェフとならなければなりません。空き家という樽に人々を再び招き入れ、心地よい環境を用意して場を熟成させなければなりません。作品もまた関係の中で意味を変化させていくでしょう。その変化こそが文化の兆しなのだと思います。一夜にして文化は生まれません。地域に存在する多様性を損なうことなくそこに住むすべてのものが活き活きと関係しあえる環境を維持しつづける努力が必要となるでしょう。

地域を発酵させるアートであること。それが私たちの目指すものです。決して腐敗させてはならない。そんな決意を胸に刻み令和の時代を歩んでいきたいと思います。

令和元年 5月

岩熊力也

お問い合わせ

発行 木曾ペインティングス・代表 岩熊力也 〒399-6101 木曾郡木曾町日義 4898-522

Mail : kisopaintings@gmail.com

Tel : 050-3700-5277